

深川市パブリックコメントによる意見募集の結果公表

意見募集結果及び寄せられた意見に対する市の考え方について次のとおり公表します。

【意見募集の集計結果】

1	政策等の名称	深川市過疎地域持続的発展市町村計画（素案）		
2	意見募集期間	令和7年12月27日（土）から令和8年1月29日（木）		
3	意見の件数(提出者数)	11件（2人）		
4	意見の取扱い (対応内容の分類)	分類	分類内容	件数
		修正	案を修正するもの	件
		既記載	既に案に盛り込んでいるもの	6件
		参考	今後の参考とするもの	2件
		その他	意見として伺ったもの	3件
5	意見の受け取り方法	持参		1人
		郵便		人
		ファクシミリ		人
		電子メール		1人

【市民意見等の概要とそれに対する市の考え方】

No.	意見等の概要	件数	意見の取扱い分類	意見等に対する市の考え方
1	<p>新中央保育園において、人手不足が続いているように感じる。保育士に十分な余裕がなく、結果として保護者の不満も溜まりやすい状況が続いているように見受けられる。</p> <p>長期的に見て、安心して子どもを預けられる環境づくりのための改善が必要ではないか。</p>	1	その他	<p>保育士の業務は、保育だけではなく、日誌や記録の作成、保護者の対応など、子どもたちの成長に寄り添い、安心・安全な環境を提供するため、多岐にわたり、負担が生じやすい状況があることは認識しております。</p> <p>現在、国の配置基準を満たした上で保育所は運営されていますが、適切な体制づくりは重要と考えています。</p> <p>人員配置は運営法人が主体となる事項ですが、市としても支援制度の周知など、必要な支援に努めてまいります。</p>

2	<p>出生数の推移を考えると、現在の保育園の数はやや多いのではないかと感じる。保育士が確保しにくい背景には、園の数が多く、結果として人材の取り合いになっている可能性もあるように思う。</p> <p>少子化が進む中で、保育園の配置や数について市が主体的に調整し、子どもにとってより良い保育環境を整えていくことも検討できないか。</p>	1	既記載	<p>深川市では、減少する出生数に合わせて市立保育所を縮小・廃止してきており、現在、市立保育所はなく、法人立保育所のみ開所されています。</p> <p>保育所の配置や規模については、法人の判断や地域の利便性など多くの要素が関係することから、市が一律に調整することは難しく、今後も地域の状況を把握しつつ、法人に対し必要な情報提供や連携支援に努めてまいります。</p>
3	<p>保育園同士の交流や情報共有の場が見られないように感じる。</p> <p>今後の子どもの人数の変化を見据え、園同士や市が一体となって将来について話し合う機会を設けることも大切ではないか。</p>	1	その他	<p>保育所同士の情報共有については、市主催の園長会議を年に数回開催し、制度改正や運営上の課題などについて意見交換を行うなど、連携の機会を設けています。</p> <p>保育所の配置や規模の調整については、運営法人の判断や地域の状況などを踏まえ、慎重な対応が必要と考えていますが、将来の子どもの数の変化を見据えた情報共有は重要であることから、引き続き連携の場の充実に努めてまいります。</p>
4	<p>小学校や中学校についても、将来的には児童生徒数に対して学校数が増える可能性があると感じる。</p> <p>統廃合などは時間を要する課題であるため、早い段階から検討を始め、市民の意見を丁寧に集約していく必要があるのではないか。</p>	1	参考	<p>現在の小学校の配置については、平成24年1月に市教育委員会が策定した「深川市学校配置基本方針」及び平成29年1月に決定した「深川市学校配置基本方針に基づく小学校にかかる対応について」を根拠としています。その後年数が経過し、児童数の減少が見られることなどから、令和6年11月に「小学校配置に関する深川市民の意見を聴く会」を各学校区で開催し、市民の皆様からご意見を伺ったところです。</p> <p>各学校区それぞれに統合に対して賛否両方の意見があったため、現時点では基本方針のとおり配置します。</p> <p>ただし、北新小学校については、令和7年6月には保護者から、7月には地域からそれぞれ市及び市教育委員会に対して一已小学校との統合要請があったため、現在、統合に向けた検討を行っているところです。</p> <p>本市としては、他の小学校区においても地域の総意として統合を希望される場合には、その時の状況や要請の内容にもよりますが北新小学校と同じように検討する考えです。</p>

5	<p>今年度、市役所で実施された子ども用品のお下がり交換会は、非常に意義のある取組だと感じた。</p> <p>不要になった用品を必要な方へつなぐことは、廃棄を減らし、SDGsの観点からも大変評価できるものだと思う。</p> <p>一方で、開催日が平日中心であったことや、日程の周知が直前だったことから、参加や協力が難しい方も多かったのではないかと感じた。また、物品の管理や残った物の対応など、運営側の負担も大きいのではないかと思う。</p> <p>今後は、ネット上の掲示板形式を活用し、写真付きでやり取りができる仕組みを導入することで、参加しやすく、運営の負担軽減にもつながるのではないか。</p>	1	参考	<p>今回、周知期間が短い中ではありましたが、多くの方から想定以上の物品の提供がありました。必要な物品を受け取った保護者からも喜びの声をお聞きしており、ニーズの大きさを再認識しているところです。</p> <p>一方で、ご意見にありますように交換会当日の参加者が少なかったことや残った物品の保管など、明確になった課題もありますので、いただいたご意見を参考に次回に向けて検討してまいります。</p>
6	<p>短大や高校の減少が進む中で、市としての特色づくりがますます重要になると感じる。</p> <p>その一案として、高校での給食提供を検討してはどうか。早朝に家を出る生徒に合わせて弁当を準備する保護者の負担は大きく、給食があることで保護者・生徒双方の負担軽減につながる。高校選択の際の魅力の一つにもなり得るのではないか。</p> <p>また、高校の授業内容についても、デンマークなどの教育を参考にし、教科の学習だけでなく、将来を見据えた選択型・専門的な学びを取り入れることで、子どもたちの進路や人生につながる教育が実現できるのではないかと考える。</p> <p>給食とあわせたこうした先進的な取組は、市の大きな強みになると思う。</p>	1	参考	<p>高校に対する給食提供については、令和6年度に行った検討経過をお伝えします。</p> <p>本市を含む北空知1市4町では、北空知圏学校給食組合が給食を提供しており、高校に給食を提供する場合には、コンテナの不足に加え、コンテナを新たに購入してもコンテナの消毒と保管を兼ねる保管庫にスペースがないこと。また、配送車のルートについては、時間的制約から現在の体制では対応できないなどの問題があるとのことでした。</p> <p>一方、市内公立高校に学校給食の受入れについて確認したところ、校舎には給食の受入れ口や保管庫などの設備がないため、受入れ体制や設備の整備が必要なことなどが問題とのことでした。</p> <p>このことから現段階での高校への給食提供は難しいとの判断に至っています。</p> <p>次に高校の授業内容に関するご意見についてですが、市内の公立高校は北海道立であるため、市教育委員会からは小中高の連携を議題とする会議などの中でいただいたご意見を各校へ伝えてまいります。</p>

7	<p>姉妹都市との交流について、コロナ禍に中断されたままになっているように感じる。</p> <p>国際的な視野を持つ人材を育てるという観点からも、再開を検討する意義は大きいのでは。実際に、姉妹都市との交流は、子どもたちが海外に目を向け、自分の将来や夢について考えるきっかけにもなる。子どもたちの成長を後押しする取組として、ぜひ前向きに動き出していただけならと思う。</p> <p>近隣の市町村では、すでに国際交流を再開している例も見られ、そうした状況を踏まえると、本市の取組がやや遅れているように感じられるため、今後の方向性や再開時期について検討を進めていただけないか。</p>	1	既記載	<p>姉妹都市との交流については、国際的な視野を育む大切な機会であると本市でも認識しており、再開に向けて検討を続けています。</p> <p>一方で、昨今の物価高騰に加え、長期の中断により、受入先であるカナダ・アボツフォード市においても受入体制の再構築が必要となっており、双方で準備が整っていないことから、現時点での再開は難しい状況にあります。</p> <p>海外文化に触れる経験が子どもたちの成長にとって大変意義深いことは、本市としても同じ思いで受け止めていますので、今後も国際交流協会を通じて現地との協議を続け、受入体制や社会情勢を見極めながら、できるだけ早い再開を目指してまいります。</p>
8	<p>安定性のある職場、仕事を増加させる方策や支援の続く活気ある方向性づくり。</p> <p>ひとり一人考え連帯意識を高める社会教育の学び、たくましい人になるように連帯意識を高め、郷土社会の発展に貢献できる人の育成。</p> <p>可能性を築く地域からの方策や外部支援の方向づけが必要。新しい物を求める意見交換の活性化を即する。真剣に努力してきた先人たちの取り組みを社会教育で知ることも必要。</p>	1	既記載	<p>本計画（案）では、産業振興による安定した雇用の確保や人材育成に取り組むとともに、社会教育や地域活動の推進を通じて連帯意識の醸成を図るなど、地域の活力向上に向けた多角的な取組を位置付けています。</p> <p>新たな意見や発想が生まれる意見交換の場づくりや市民参加の促進も、まちづくりに必要な視点であると受け止め、今後の施策推進の参考とさせていただきます。</p>
9	<p>田園の街づくり計画を土台に北空知経済を育む力、地域市民とのワールドカフェ開催が求められる。</p> <p>経済成長や地域課題解決のけん引役の構成をつくる。経済圏をとりまく地域産業の方向性を学ぶ。ひとつの成長産業の波及効果は大きい。</p>	1	既記載	<p>本計画（案）は深川市総合計画と整合を図りながら、人口減少下においても持続可能なまちづくりを進めることを基本としています。</p> <p>ご意見のワールドカフェの開催については、地域の合意形成や新たな発想の創出に資する手法の一つとして受け止め、今後の施策推進や事業展開を検討する際の参考とさせていただきます。</p>

10	<p>これからの時代を生き抜く「共感リーダーシップ」を熟成させていく役割が必要。幅広い視野をもって課題解決に貢献できる人材を育成する専門家とつながりの軸をつくる。</p> <p>地域の発言から拾うことから始まり実践に取り組む考え方を合意形成することと思う。</p>	1	既記載	<p>ご意見のとおり、多様な価値観を理解し、地域の声に寄り添いながら課題解決を進める「共感リーダーシップ」は、人口減少が進むこれからの時代において重要な視点であると認識しています。</p> <p>本計画（案）では、人材育成や地域活動の促進に加え、デジタル分野をはじめとする外部専門家との連携、産学官の協働、指導者による研修など、多様な主体と協働しながら地域課題の解決に取り組む体制づくりを位置付けています。</p> <p>いただいたご意見は、地域の声を踏まえた合意形成のあり方を検討する際の参考とさせていただきます。</p>
11	<p>地域住民と行政組織が一緒にやるバックカスティングでの未来へのスタート地点の解決策・優先順位が決まる。住み続けられる田園環境のまちづくり計画が深川市住民の生活に密着してくる。各役割と仕事役目分担。変革に向かうチャレンジを支援する体制が必要。</p>	1	既記載	<p>ご意見のとおり、将来目指す姿を共有したうえで、そこから必要な取組や課題の優先順位を整理していく「バックカスティング」は、人口減少下における持続可能なまちづくりを進めるうえで有効な視点であると受け止めています。</p> <p>本計画（案）は、深川市総合計画や第3期深川市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン等との整合を図りながら施策を位置付け、将来を見据えた視点を適宜取り入れているものです。</p> <p>計画の推進にあたっては、市民との協働や関係団体等との連携のもと役割分担を意識しながら取り組む考えでありますので、地域と行政が対話を重ね、挑戦を支える体制づくりや合意形成の進め方を検討する際の参考とさせていただきます。</p>